

暴力地獄！筑豊炭田の惨状を訴ふ！

相續く相田炭坑、総田六坑、二瀬中央坑の暴力事件

全国の同志諸君の支援と滿天下の正義の批判を仰ぐ

日本労働總同盟日本石炭坑夫組合

世界市場に日本商品のダンピングが言爲されるまでに至る輩々しき近代日本産業の躍進の裏、蒙々天に沖する工業日本の股盛を表衆する黒烟の影には常に怪き犠牲の生血が流されてゐる。近代日本の全産業の動力を司る炭坑業の主体は筑豊炭田にその王座を置いてゐる。この近代日本の全産業の心臓とも稱すべき筑豊の全炭山に凡そ立憲法治國とは想像されない非社會的、非人間的暴力が洩しかも白晝公然と撞に殆ど無警察の状態で横行し、幾多の同志が鮮血に彩られてゐる。

我が日本石炭坑夫組合は筑豊の炭山に日本労働總同盟の国旗を掲

財團 協調會福岡出張所

げて以來、總同盟精神に則り、永年國家産業に於ける炭坑業の立場と炭坑業の國家的重要性を深慮し、嶺山労働者の生活權の確立並に向上を戦ふと共に坑夫大衆の組織の實力と統制ある訓練を以て炭坑業の發展と平和に協力の誠を示してゐたのであるが、筑豊炭坑資本家は頑迷にして徹底的無理解、産業協力の誠意ある確實なる労働組合に對しても、恐怖すること死靈に對するが如く、御抱の暴力團一勞務係又は人操りと稱するゴロツキ上り或は無頼漢の現役に命じ又は御用博徒軍を賦かして暴力を亂用し、コン棒、木刀、アイクシ、ドスを以て労働組の合の破壊争議の切り崩し、その他一切の運動を流血の慘禍で阻止、壓迫、必死の狂態を續けてゐる。

次に本年度に於ける極端なる實例二、三を列擧して汎く全國の正義の批判を乞ふ次第である。

財團 協調會福岡出張所